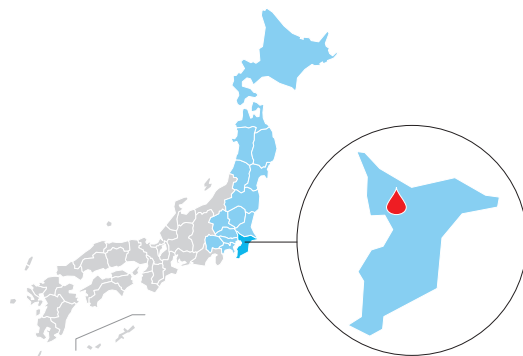


水質ワーストワンの汚名を返上したい！

# 環境に優しい「植栽いかだ法」による水質浄化

団体名 **印旛野菜いかだの会**

主な活動地域 **千葉県佐倉市印旛沼**



## 目的

印旛沼は流域の千葉県民140万人の飲料水に利用されているものの、水質汚濁負荷は急速に進行しており、湖沼水質全国ワーストワンの汚名を着せられている。このプロジェクトはいかだで野菜やハーブを水耕栽培し、水中では貝類を養殖する植栽いかだ法によって、その水質を再生し、流域周辺で農業・漁業に従事する人々、またすべての市民のために、かつての自然豊かな印旛沼を取り戻し、その環境保全を図る。

## 実施内容

空芯菜・ハーブをいかだで水耕栽培して、水中の富栄養化の原因である窒素やリンを吸収し、アオコの発生を抑える。これにより水辺には動物プランクトンが増え、小エビや小魚も生息ようになる。さらに、いかだの下に二枚貝（池蝶貝・マシジミ）をかごに入れてぶら下げ、濁りの原因である浮遊有機物を吸収し、透明度を高め、沼底まで太陽光を届かせて水生植物・動物の繁殖を促し、自然浄化機能を回復させる。8年前から野菜いかだを作っているが、木製のは3年の耐久性が限度であるため、平成20年度からは新規開発したアルミ製いかだを使う。体験環境教育の場としても活用する。



ボランティアに参加しよう！

- ★新型アルミ「いかだ」製作 2008年10月～11月
- ★新型アルミ「いかだ」進水 2008年11月～12月
- ★冬野菜（ハーブ）栽培・水質調査 2009年 1月～ 3月
- ★空芯菜種植えと栽培・水質調査 2009年 6月～ 7月
- ★体験環境学習 2009年 7月



水質浄化のための活動は長く、資料・データも多い



二枚貝の効果を力説するメンバー

## 選考委員のひとこと

空芯菜は栄養価の高い野菜で横浜中華街などに出荷している。印旛沼の水質浄化は簡単ではないが、メンバーの方は活動の成果がデータでも見えるとうれしそうに語ってくれた。

TOTOメンテナンス Kさん記



一部の水路では水質改善の確かな効果も出ている「いかだ」